1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信

なんでやねん

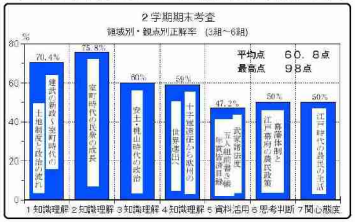
発行責任者　倉橋　忠

№４９－１／１０

２学期をふりかえっておこう

ずいぶん遅くなりましたが、やっと２学期の期末考査のまとめを発表します。ちょうど、３学期のはじめに、２学期のことを思い出す材料として、いいかな？

２学期の期末考査の成績は、ふだんの授業の成果が現れたのか、かなりいい成績でした。平均点で60点をこえています。出題のレベルが低いわけではありませんから、君たちの力がかなりついてきたことを証明するものだと評価してもいいのではないでしょうか？



その内容を見ると、ほとんどの領域・観点で、まずまずの合格点を示しています。しかし、資料活用に関する学力は、かなり弱いという結果が出ています。一方で、君たちの苦手な「作文」の力は、確実に成長してきています。前回の２学期中間考査では、得点率がわずか32％しかありませんでした。それに対して、期末考査では50％にとどきました。

ここで、いつも作文で試している「表現力、総合的な思考・判断力」と、「知識・理解」や個々の場面での「思考・判断」の学力が、どのような関係にあるのかを、期末考査の結果から考えてみましょう。

作文の表現力(関心・意度)と知識・思考力の相関関係

問題Ⅶ ＼ 問題Ⅵ	年貢制度と農村の変化に関する知識・思考力							
	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	小計(人)
作文・表現力 6点	5	1	5	2	0	0	0	13
5点	8	7	5	4	3	1	3	31
4点	5	1	4	4	5	3	1	23
3点	0	3	5	4	8	2	0	22
2点	1	1	4	2	5	4	2	19
1点	0	2	2	1	0	3	4	12
0点	2	1	1	5	2	8	7	26
小計(人)	21	16	26	22	23	21	17	146

－表１－

表1は、期末考査の「問題Ⅵ」と「問題Ⅶ」の得点別に人数を数えたものです。問題Ⅶの「作文」で高得点(6～5点)の人は、ほとんどが問題Ⅵの「思考・判断」の問題でも高得点を取っています。反対に、問題Ⅵで低得点の人(2～0点)の人には、Ⅶで6点を取れる人はいませんし、全体的に低得点でおわっています。

ごくわずかに、Ⅵが高得点でも、Ⅶでは低得点の人がいます。この人たちは、暗記することには強くても、自分で考えることが苦手なのでしょう。「思考」問題は、ある程度「問題文」のほうに考え方が示されています。その考え方に従っていけば、正解にたどりつくことができます。このレベルではまだ、「自分で考え」ているとは言えません。作文のように、考え方が問題文に示されていないような場面で、「自分で考える」ことができなくてはなりません。暗記することだけに、なれてしまってはいけません。

ところで、「問題Ⅵ」は、幕藩体制が年貢で成り立ち、年貢を確保するために幕府や藩がとった農民政策についての理解を試す、「思考・判断」の問題でした。この問題を解くためには、幕藩体制の意味と、年貢制度がもっていた意味を理解しておく必要があります。すなわち、「思考・判断」の問題は、「知識・理解」を土台にして、「考える力」を試すものなのです。

それに対して、「問題Ⅶ」は、「江戸時代の農民の生活について、自分の考えを説明しなさい。」という作文を要求する問題です。ここでは、理解したことを土台にして、自分の感じたことを論理的に整理して、表現しなければなりません。

また、作文では、総合的な表現力が「いのち」になります。どんなに勉強しても、その勉強した内容を自分のものとして使用し、自分の「考え」や「感じ方」を表現できなければ意味がありません。そのような「力」になってこそ、学んだことが「生きる力」に結びついていきます。テストの問題を解けても、生活の上で、学んだことを活用できなければ不十分なのです。

表現方法に使用するポイントになる言葉は、学習した「専門用語」です。これを忘れて、自分勝手な言葉でいくら表現しても、説得力がありません。普段から学習した「専門用語」を使って考える練習をしてください。

そのような「力」が蓄(たくわ)えられたときに、社会事象(社会的におこるできごと)を科学的に理解できるようになります。社会事象を社会科学的に理解して、社会科学的に判断し、自分の生き方・進み方を決定する「力」を身につけるのが、社会科を学ぶ目的なのです。知識を増やすだけでは、この「力」はつきません。社会科的な知識を活用できなければ、意味がないのです。このような「力」をつけるためのトレーニングだと思って、「作文」に真剣に取り組んでほしいと思います。

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

№49－2／10

友だちの作品(答案)から学ぼう

問題「江戸時代の農民の生活について、自分の考えを説明しなさい。」

◎採点基準

次の歴史的事実を指摘していれば、各２点。

①江戸幕府の政策によって、農民の生活が厳しいものになったこと(たとえば「五人組」「年貢の取り立て」など)。

②当時の生産力の低さによって、貧しさから逃れることができなかったこと(「なんでやねん」№46に、反あたりの米の収穫量を示してある。それによれば、江戸時代の収穫量は奈良時代の２倍になっているが、現代の３分の１程度の収穫量しかない)。

③年貢の機械的平等や貨幣経済の浸透によって、貧富の差が拡大したこと。

④その他、農民の苦労を具体的に表現していること。

ただし、論理矛盾は－２点。

次に紹介するのは、6点満点中、5点以上の答案です。ただし、5点以上の答案のすべてを紹介していません。

なお、答案中の誤字や脱字を訂正しないで、そのまま紹介しています。注意して読んでください。また、内容的に誤りがある場合もあります(採点に減点法を取っていませんから、誤りがある場合でも、高得点になる可能性があります)。

３組　Ｈ．Ｍ　江戸時代の農民の生活は大変苦しいものだった。それは幕府が五公五民といいながら年貢の他に役人の賃金などを払わせたりしているからである。農民は少しでも生活を楽にしようと商品作物を栽培した。作物の作りすぎで地力が低下し、肥料が必要になった。肥料を買うために金が必要となり、農村に貨幣経済が浸透し、これによって農民の貧富の差がひろがっていった。ぼくは意図して年貢の分担を農村に任せたのも五人組の制度をつくったのも幕府は最初からこうなると計算していたのではないかと考えます。

江戸時代の農民はとてもねばり強く少しでも生活を向上させようと考える人類の最初の人間はこんな感じなのかと思わせる農民です。

(武士たちは、農民を苦しめることが、自分たちの土台をゆるがすことに気づいていなかったと考える方が素直じゃないかナ。それは、農民の生活が成り立たなくなったことが、幕府の滅亡につながったのだから。それに、江戸時代の農民は「最初の人類」じゃないよ … 倉橋)

３組　Ｈ．Ｙ　江戸時代の農民のくらしはかなりきつかったと思う。将軍家康は「年貢は百姓が生きぬよう、死なぬよう取れ。」と言ったといわれている。このことを利用して、幕府や藩は、とれるだけ取った。九州の島原・唐津地方では、ききんが続いたにもかかわらず、高率の年貢を強いたので、島原の乱がおこったほどだ。慶安御触書によると、「百姓は、麦・あわ・ひえ・大根の葉などをむだにせず、米を食いつぶさぬよう」といってある。田中という人の話では「正月でも米を食えず、いろんな食物を色がわからなくなるまで混ぜた雑飯を食べお茶を飲み腹をふくらせていた」といっている。全部が全部そうとは限らないけど、かなり多かったと思う。そのため、新田開発や二毛作をした。肥料も一番安い下屎をなめてまで品質を確かめ、買い取った。干鰯や油粕は高かったから、そこまでして集めた。

この食生活は昭和23年ごろまで続き、特に戦争中はカエルやイナゴまで食べていた。生きるための努力はすごいと思う。

(新田開発は農民ではなく、大名や大商人が農民を使って行ったんだ … 倉橋)

３組　Ｍ．Ｏ　今の私たちのくらしと江戸時代の人たちのくらしとでは、まず、私たちが毎日学校にいって勉強をしているが、江戸時代の農民は年貢をなんとしても … と、毎日毎日働いていたのだろう。

私たちにはあたりまえのことが江戸時代の人たちには、あたりまえではないとすごく思う。

特に倉橋先生の授業で、いい肥料を … と考えた結果が下屎を都市部まで求めていったと聞いておどろいた。すでに今の社会と昔の社会とでは大きなギャップが生まれていることがこのことからわかった。

だから私は、もっと江戸時代の人々のくらしを知り、こんなことがあって　今の社会があるということを忘れてはならないのだと感じました。

(「ギャップ」の使い方が変だね … 倉橋)

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

№49－3／10

３組　Ｋ．Ｓ　江戸時代の農民たちは、米の半分以上を年貢として取り上げられ、残った米も、銀をかせぐために、ほとんど使ってしまって、１日に食べられる分はほとんど無いに等しかった。

二毛作によって少しは生産量が増えたといっても、その大半は年貢にとられ、土地を肥やすためには肥料が必要。でも、肥料を買うためにはお金が必要になって結局、農民の暮らしは楽にはならなかった。そして、貨幣経済の浸透によって農民たちの間に貧富の差がうまれ、貧しい農民たちはさらに貧しくなっていった。

そのため、農民たちは大根の葉、麦などをたべて生活し、今の私たちには想像つかないような、大変な　(この作文は、途中で切れている)

(二毛作の作物を取られたのではなく、麦があるから米を取られたと考えた方が自然だよ … 倉橋)

３組　Ｍ．Ｍ　幕府は朱子学を強制して、五人組制度を行い、農民をお互いに監視させたり、連帯責任を負わし、農民から確実に年貢を取り立てました。当時の生産力の低さは農民の生活を苦しめました。その苦しんだなかでの農具の改良、お米の品種改良、金肥の導入の知恵はすごいと思った。金肥だって、自分の舌でウンチの価値をつけることの発想がすごい。私なら、絶対に考えつかない。

こうした私たちの先祖のおかげで私たちは毎日、おいしいお米を食べることもできるし、農具だって、備中ぐわから大型機械へと変わっていった。先祖の人たちの知恵で私たちの今の生活は成り立っているんだと思いました。また、昔の人は頭がいいんだなと思いました。

(コンパクトにまとまっているネ … 倉橋)

３組　Ａ．Ｍ　江戸時代の人はたいへんだったと思う。五公五民(四公六民)で半分の米をとられて五人組で逃げられない状態のまま畑をたがやしているんです。私だったら考えられません。しかも肥料だといい、金肥を買うんです。その金肥が下屎だったら味で判断して、買わなきゃいけないと聞いたとき、自分はできないと思った。でもその味で石高とかもかわってくるし、生活もかわるはずです。そんなことを農民はしてきたんだと感じました。毎日いっぱい食べることもできずによくがんばってきたんだなと思いました。しかしそれは厳しく苦しいものだったのだろう。

(他人事のように表現してしまっている点がおしい … 倉橋)

３組　Ｓ．Ｙ　江戸時代の農民は、厳しくて苦しくて重いものに　しばられていたと私は思いました。まず、慶安の御触書。衣生活も食生活も仕事のことまでも細かく制限され、ほんのひと時の自由さえもありませんでした。ただ「農民は年貢を納めるために生きろ」いう感じで　どんなに働いても、手持ちに残るのは、ほんの少しの米だけだから、つらかったと思います。

五人組の制度も、年貢をきちんと納めないと、農民達が処刑されるし、士農工商で厳しい身分差別もされて、自由なんてなかったと思う。

(「五人組制度」と「身分差別」をもう少し説明するとよかった … 倉橋)

４組　Ｔ．Ｋ　江戸時代の農民の生活は室町時代よりもひどかったと思う。室町時代の農民は武器を持って幕府にはむかうことができたけどできなくなった。そこで農民は生産力を高めようとして備中ぐわや千歯こきを発明した。しかし米以外にも年貢を要求されたので商品作物を作り出した。でも綿花栽培に失敗すると赤字になり次の年米ができないと子供を売りに出さなくてはいけないようになる。この時代に生まれていたら、ぼくは売りに出されていたかもしれない。でもそのうち自分も食べれなくなるのでこんどは土地を売らなくてはならなくなり土地を貸りて農業をしはじめた。また米ができなくなるとこんどは自分を売らなくてはならないようになった。これで働くだけの人間になっていく。少々農かな農民でも一度綿花ができなかったらこのようになっていったのでほとんどが土地を持たなくなっていった。

(「はむかうことができたけどできなくなった」のところは、文を２つにして説明するとよかった。また、「貸りて」ではなく「借りて」の誤り。「農かな」ではなく「豊かな」の誤り。基本的な国語力をつける必要あり … 倉橋)

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

No.49－4／10

4組　Y．T　　ボクは江戸時代の農民について思うことは、頭はいいし、精神的にも強かったんだな～と思いました。幕府が五人組と太閤検地で農民たをを土地に縛りつけて年貢は必要以上に取り立てて米を作っている農民が米を食べられない状きょうにもちこんだ上に、年貢外の名目で銀を取りたてたりした。それもすべて乗りこえるために農民たちは色々な事に対して前向きに思考策ごをして農具の開発や新田開発や商品作物の栽ばいなどを積み重ねてきた事は大変な事だっただろう。特に肥料の問題はすごかったと思う。中でも「うんこ」は自分達のものはろくなものを食べていなかったから、肥料にならなかったので都まで行って、お金を払ってまで人の「うんこ」を買ってもって帰る。今のボクたちにはとうてい考えもしないことだ。又その「うんこ」のそうだつの戦までおきていたのだから、今のボクたちには　　（この作文は途中で終わっている）

（「太閤検地で農民たをを」は、「たちを」だろうネ？　また、「思考策ご」は「試行錯誤」の誤り。「ます」調と「である」調が入り乱れている。文体を統一することも注意しよう … 倉橋）

4組　T．N　　江戸時代の農民の生活はかなりきびしいものだったと思います。室町のころとくらべてかなりまずしい生活でした。年貢を取れるだけ取られ、村にのこった米は一人に1日一合だけで、農民は米なんてとてもたべれなかったと思います。今のぼくらの生活とはものすごい差があり毎日なんとなく　たべてる米ですが農民にしてみればかなりこうかなものだったにちがいありません。そのころの農民はぞうすいをたべていたとききました　ぼくらもたべましたが倉はし先生が今風にかえて作ってくれたからたべれたんだと思います。

幕府に米をとられ、着る物さえ幕府に決められていた生活。五人組制度で反乱をおこすにおこない生活。くるしかったと思います。ぼくらのように　こたつに入ってゆっくりできるだけでも、米をたべれるだけでも　あのころにくらべたら　たいへんなことだったんろおなと思いました。

（「反乱をおこすにおこない生活」ではなく、「おこせない生活」だろうネ。現代の自分の生活と、江戸時代の農民の生活を対比している点は、具体的でいいよ。欲を言えば、当時の武士と農民との生活の対比があれば、もっとよかったんだけどね … 倉橋）

4組　K．S　　江戸時代の身分制度で、農民は武士の次に身分が高かったんだけれど、実際には武士の生活のために年貢を多く納めたり、慶安の御触書を出されたり、食事といっても、お茶やおかゆでおなかをふくらまし(おかゆといっても、中味は、はっぱとか、あわ、きび、ひえでお米は入っていないものだったけど。)きびしい生活で、本当の身分は一番下のようだったと思う。どうして、ここまで厳しい生活で、一揆とかを起こさないのか、不思議に思ったけど、えた・ひにんという身分のすごい低い人々たちを見て農民は安心していたというのを知ってちょっと納得した。えた・ひにんの人々は、町はずれのあれ地に住んだり、あと他にもたくさんの差別をうけてたんだけれど、なんか今の部らく差別と少し、えた・ひにんの差別となんか似てるなぁとふと思った。

（今日の「部落差別」の直接の根源は、江戸時代の身分制度だと考えられているんだ。農民の厳しい生活が、被差別部落の人々への差別をさらに厳しいものにしたと考えられるのだ … 倉橋）

4組　A．S　　江戸時代の農民は、五人組制度によって徹底的に米を奪われ、厳しく苦しいものだった。そのために、農民は米を食べれず、毎日　ぞうすい・おかゆ・まぜめしなど食べていた。ぞうすい　といっても、たくさんの草木の葉をいれておなかをふくらませていた。

農民は少しでも生活が向上するために、いろいろな知恵を出して考えた。その結果、田畑の広さを少しでも広くするようにしたり、農具の改良や商品作物を作ったりしていた。

今の私達の先祖は、きっと農民だったと思う。私達は、あたりまえのように米を食べているけど、昔は　そんなことはなかった。私達の先祖が苦労をし、生きのびたからこそ、私はここにいると思う。少しは、そういうことを考えて米を食べようと思う。

（今のわれわれは、農耕もしないで、漁業もしないで、いろんなものを食べている。けれども、今日でも、われわれ都市に暮らすもののために、日々土に働き、海で働く多くの人たちがいる。歴史の上に、そして多くの人々の労働によって、今日のわれわれの生活が成り立っていることも忘れてはいけないネ … 倉橋）

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

№４９－５／１０

４組　Ｋ．Ｒ　　幕府からの厳しい命令(慶安御触書など)によって、苦しい生活にたえて日々暮らしている農民は、その苦しい生活の中で、自分達の生活を少しでもよくしようと努力を重ねていると思う。

新田開発や農具の改良によって、できた”空き時間”を使って商品作物をつくったりして、精一杯知恵を使って精一杯の努力をしていると思う。幕府はこの農民なしでは生活できない。江戸時代の農民がこのような努力をしていなかったら、農民が滅びるどころか、幕府までもが滅んでしまう。農民は、この時代になくてはならない存在だと思う。江戸時代の農民の努力があったからこそ、幕府は成り立っていると思う。

(幕藩体制の土台が「米・年貢」だったことを忘れた作文のようだね。もう少し、書く順序を考えて書けば、レベルの高い作文になったと思う … 倉橋)

５組　Ｄ．Ｉ　　江戸時代の農民の生活は、慶安御触書により規制され、五人組の連帯責任によって年貢から逃げることのできない状態でした。

それは、幕府も藩も収入のほとんどが年貢だったからです。そこで、農民は新田を開墾したり備中ぐわや千歯こきなどの農具の改良や肥料の利用により生産を高めようと努力していた。また、幕府は農民の不満をやわらげるために農民より下の身分のえた・ひにんをおいた。このようなしくみは今でも残っているなと思いました。

(「身分制度」をもう少し、つっこんで考えてほしかったなぁー … 倉橋)

５組　Ｆ．Ｔ　　江戸時代の農民の人たちはかなりきつい生活をしているとぼくは思う。それはなぜかというと農民の人たちが米を収穫できたのは水田だけで屋敷畑では米を収穫できない。水田で米を収穫しても、米の取れない土地の分まで米の年貢を納めることになったし　それでその村の水田で取った米でその村の人たちで分けると　その村の人々が食べることの出来た米の量は１人１日平均で１合ほどだった。でもその１合の米で、服とか畑をたがやす道具と米をかえて、けっきょく農民が食べる米はあまりないなとぼくは思う。ぼくの考えは、農民の人たちは毎日くるしい生活だったんだなとぼくは思う。

(「くるしいから、くるしい」で作文が終わっている。前提(数学の証明問題の「仮定」と同じような意味)を結論にもってきてはいけません … 倉橋)

５組　Ｄ．Ｔ　　江戸時代の農民のくらしはとてもくるしかったと思う。江戸時代の農民は夏の間に米をとって冬に自分たちの食べる麦などを作る二毛作をしていた。米はほとんど幕府にとられて自分たちが食べていたのは大麦　あわ、ひえ　とかいうものを毎日たべさせられていた。その上米をごまかすと五人組の家ぞくを全いんをころすというようなことまでしていた。そして二毛作で地力の下がった土地をなおすためにウンコを使っていたという。しかもそのウンコを買いに行って　そのうえ　なめるいいうのだからすごいと思った。でも昔の人がウンコをなめていたから今のぼくたちの日本があるのかもしれない。昔の人は食べれなかった米をぼくたちはあたりまえのように食べているけど昔の人がいたから今食べているんだと思う。

(文の途中で、主語が変わってしまっています。作文を書く前に、書きたいことを箇条書きにして、書く順序などをよく考えてから、書くといい … 倉橋)

５組　Ｔ．Ｍ　　江戸時代の農民の生活はとても苦しかったと思う。年貢の取りたては「五公五民」だった。でも米が取れるのは水田だけで、畑や屋敷畑からは米が取れない。つまり米の取れない土地の分までの米の年貢を納めていた。また、年貢の外にも夫米や御蔵前入前や御口米という名目で米を取られている。

朱子学の倫理を強制されたうえに、五人組制度で逃げ出すこともできなかった。新田開発や農具の改良等に努力をした。米を残すために商品作物を栽培し、それを売って銀納を済ませた。しかし、二毛作や商品作物の栽培などに金肥が必要になった。

金肥に頼る商品作物の栽培は、農民に貨幣経済を深く浸透させた。年貢の機械的な平等負担により、田畑が広くない農民は借りた米を返せなくなり、せまい土地まで取り上げられてしまった。

年貢の機械的な平等負担と貨幣経済の浸透により、農村の貧富の差は拡大され、貧しい農民はもっと貧しくなってしまった。

(新田開発は幕府・大名や大商人が行い、農民は働かされたのだ。また、「農民に貨幣経済を深く浸透させた」ではなく、「農村に」だね。でも、時代の特徴を具体的によく説明できている作文だよ。ただ、自分の「感じたこと」が表現されていないのが残念だけどね … 倉橋)

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

№49－6／10

５組　Ｒ．Ａ　『農民は大変だ』わたしはそう思う。だって農民は一生けんめい働いているのに、半分以上の米を取られる。そして、幕府はその米を食べて、のうのうと暮らしている。今の時代は、税金をとられても、十分暮らしていける。しかし、昔の農民は生活がキツかった。年貢によってほとんど持っていかれるから。農民は、『太閤検地』などによって、土地にしばりつけられることになったし、『五人組』によっても村単位で年貢を収めなくちゃいけない。これによって、サボルことができなくなる。そして、『朱子学』によって目上の人をたてなくちゃいけない。これは、今といっしょだ。(いや、昔からつづいているのだ。)

わたしはこんなこともしらなかった。ＳＦＣの『大江戸日記』で国を買うことができる。その時、年貢をどれだけ取るかきめれる。小学校のときは、100%だったら、お金がいっぱい入るから、60%にしてたらすぐ人手不足になったりした。これは、年貢のことをちゃんとしっていたらこんなことにはならない。わたしは、農民から100%の米をまきあげた。どの時代の将軍よりもひどいことをしていたのだ。

(この作文は、途中で「ゲームの中の自分」と実在した幕府・武士を、「いっしょくた」にしてしまっているネ。これでは、『農民は大変だ』の言葉が、とても軽くなってしまうし、農民の苦しみを遊び感覚でしかとらえていないと理解されても文句が言えないよ … 倉橋)

５組　Ｒ．Ａ　江戸時代の農民はすごくとりしまられていたんだなぁと思った。

例えば、慶安御触書や５人組の制度である。これらは、幕府が年貢を確実に治めさせるものだけど、ちょっと年貢を収めるのが多すぎ！と思う。しかも、御口米だの夫米だのといって通行料といってまたまた年貢をとりあげるし、江戸時代の農民は年貢のとられすぎ！　それで、村役人が年貢を出すのは平等とかいって貧しい農民は年貢をだせなくなってしまって、最後には、没落する農民労働者を生み出したんだと思った。

(「年貢を確実に治めさせる」は、「納めさせる」の誤り。また、「通行料」なんて年貢はなかった。文章が長すぎるのを改めることと、句読点をうつことを勉強すること … 倉橋)

５組　Ｒ．Ｉ　徳川家康は、農民の衣食住を最低限にとどめさせた「慶安御触書」を出したり、連帯責任を負わせる五人組制度によって、年貢を徹底的に取っていた。幕府は、兵農分離による身分支配を強め、士農工商の下にえた・ひにんをつくり、町人や農民の、幕府や藩に対する不満をもたせないようにした。そのような幕府の圧迫にも負けず、農民たちは、自分の舌で確かめてまで、よりよい下屎を求めたり、商品作物を作ったりして、少しでも安定な生活をおくろうとした。その力が、一揆を起こす源となった。それに比べて現代の私たちには身分差もなく、平等に勉強、結婚、仕事をすることができし、生活も安定している。年貢の代わりに、収入に応じて税金をおさめるが、それは本当にみんなのために正しく使われているのだろうか？

(「慶安御触書」は徳川家康の時代ではなく、３代将軍・徳川家光の時代に出されたものです。また、「それは本当にみんなのために正しく使われているのだろうか？」という点は、現代の政治に対する批判ですが、「年貢」と今日の「税」の違いを説明しないで、いきなり書くと、ここではむかんけいになってしまうよ。江戸時代の政治と今日の政治を対比することは、学習の成果だけど、この点をしっかり意識しておいてネ … 倉橋)

５組　Ｍ．Ｏ　江戸時代の農民のくらしは、慶安御触書などで、確実に年貢をとりたてられ、江戸時代の生産力では、たえられないくらい厳しい生活になった。

年貢を払ってしまって、家族たちの食べていく米がなかったら、ほかから金を借りて生活をして、その借りた金が返せないほどまでになり、土地を取られる。というようなことまでおきた時代だ。

それを考えると、今の私たちの暮らしは、とても豊かなくらしである。

(土地を失う農民の出現は、農民の間での貧富の差の拡大を意味している。そのことをしっかり書ければ、もっとよかった … 倉橋)

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信
なんでやねん
発行責任者　倉橋　必
No.49－7／10

５組　Ｙ．Ｔ　　農民の苦しく厳しい生活ができあがった背景には、幕府が出した、細かく厳しい触書などがある。秀吉さんが決めた兵農分離のおかげで、農民は土地にしばりつけられた。本年貢の他にも米を取られ、作っている農民自身は、麦などを食べ米などめったに食べられなかった。そんな苦しい生活の中でも農民たちは、生産向上のため努力した。米の品種改良、施肥による農作。だが、金肥にたよる農作は裏目に出た。たとえお金をつかっても　うまくいくとは限らなかったようだ。そのせいで農民たちの間にも貨幣経済の浸透で貧富の差がでてきた。そのうち、田んぼで働いていけない農民も出てきた。彼らは今の労働者と同じで『田んぼで働けないので、ちがう仕事でお金をかせぐ』というようになった。今の時代の場合ほとんどがそれだなと思う。朱子学による倫理(といっても　私は倫理というものがわからない)で、『上に従え』という考え方をつけさせた。それも今の時代にすごく残っていると思う(学校だけじゃなくても)。江戸時代の農民はそんな中を生きぬいてきた。今の生活は歴史を土台にしてつくられてきているということを実感させられる。

(秀吉の政策が、江戸幕府に引き継がれ、江戸時代になって完成したことを説明するべきだった。この作文では、「秀吉の時代が江戸時代」と理解しているようにも読めてしまうから … 倉橋)

５組　Ｓ．Ｔ　　○　農民の生活は、正月でも米はたべられなかったのです。毎日、草とかを入れたまぜ飯や、おかゆなど　とお茶でお腹をふくらませていたのです。

○　農民は肥料としてウンチを使っていて、自分のウンチは使えないから(自分のウンチは食べている物が　よくないからいいウンチじゃない)わざわざウンチを買い取りに行ったんだけど　いいウンチばかりあるから、ウンチの取り合いで戦っていた！　殺し合いになる戦い！

そして、どれがいいウンチか自分の舌で味見をしていた。

いまの私たちだと考えもしないことをやってすごいんだなぁとかんしんしました。ウンチなんか味見しないし、買い取るために戦ったりとっても考えられない。それに、おかゆや　まぜ飯とお茶でお腹をふくらましてたなんてしんじられない。いまの、私たちに比べたらとってもつらい事苦しい事をあじわっていて、すごいと思った。

(「いいウンチばかりあるから、ウンチの取り合いで戦っていた！」のところの説明が不足していて、何のことかわからない。「大阪城」の「ウンチ」のことだね … 倉橋)

６組　Ｔ．Ｉ　　農民は年貢によって、気楽な生活どころじゃなく、一日一日が命がけだった。農民は必死になって、お米の生産を増やそうとしている。稲の品種改良で、早く実る米やおそくに実る米を作り、天災にそなえたり、慶安御触書で人間のウンコが肥料になる事がわかると、自分の舌で価値を確かめたりした。そうした、昔のご先祖様の血のにじむような苦労のおかげで今の自分達があると思う。

(「気楽な生活どころじゃなく」のところは、「慶安御触書」の最後の段の「百姓ほど気楽な生活はない」を、引用しているのだろうけど、そのことを書けばもっと「勉強しているよ」ってことを表現できるよ … 倉橋)

６組　Ｙ．Ｉ　　江戸時代の農民は、農具の改良で、備中ぐわや、千歯こきができて、生産力も増大したと思うけど、幕府は慶安の御触書を出して、夫米や御蔵前入用、御口米といった年貢を取られて農民はとてもくるしんだと思う。しかも田に肥料を与えるのに自分たちの屎尿では無理なので、優れる屎尿を都市部に必死に求めたと思う。幕府は、村に、米の耕すことのできない家や畑にも年貢を要求して、しかも農民１人あたり１日に１合しか米が残らなかったので農民は食べる物がないし、しかも重労動でかなりくるしんだと思う。それに五人組制度の連帯責任で年貢をごまかすことができなかったのでどうしようもなかったと思う。

(知っていることを、ら列しただけの文章になっている。そのために、「くるしい」「くるしい」ばかりが強調されてしまっている。かなり具体的に説明が出来ているのだから、もう少し、整理して論理的に並べるといいよ … 倉橋)

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

№49－8／10

６組　Ｙ．Ｋ　　江戸時代の幕府、大名、武士は農民の年貢により生活していたため、農民への政策は厳しかった。例えば、五公五民の年貢の他に御蔵前入用などをした。だから農民の生活は厳しくつらいものだった。しかしこうした中でも農民は少しでも生活を楽にしようと新田開発や農具の発明、肥料の使用などの努力をした。ぼくは、とてもすばらしいと思った。

現在我々は重税で苦しんでいるといっているが江戸時代の年貢とは比べものにはならない。ぼくたちは、少しの事ですぐあきらめる。ぼくたちは、江戸時代の農民の努力やたくましさをもっと学ばなければいけないと思う。

（「御蔵前入用などをした」は、「御蔵前入用などもあった」とするべきだろうね。現在の税制度との比較ができたら、もっといい作文になるんやけどなー。これはまだ無理か？ … 倉橋）

６組　Ｄ．Ｔ　　江戸時代の農民の生活は、とても厳しいものだと思う。なぜなら、太閤検地で整理されている土地で確実に年貢を取りあげて、刀狩りで取られた武具もないので一揆はできない。その上　二毛作をさせて、多量に米をうぱい、地力は低下していって、肥料を増やそうとして、屎尿を肥料にしたけれど、自分達の屎尿より大名や町人の屎尿を手に入れるため町を探していたけれど、やはりそこでも金を必要として、年貢と金肥の分で少しずつ厳しくなったと思う。今は、税金をかけられているけれど昔よりはひどく取られていないし、金肥も化学肥料が出てきているから低価格で肥料を手に入れることができる様になった。農具の向上は少しでも時間を作ろうとした農民の知恵である。

今のぼく達が江戸時代の農民の生活をしろと言われたらまず無理だと思う。江戸時代の農民の人々の生活は厳しいとぼくは思う。

（「太閤検地」「刀狩」の時代と、江戸時代の区分をしっかり説明した上で、展開すると文全体に説得力が出た。ところで、なんで化学肥料やったら安く手に入るって思ったん？　あべこべやで。化学肥料こそ、金肥の代表格や。高いねんで。これが戦後の日本の農家を困らせたんやし、現在でも東南アジアなどでは、一部の大地主しか買えないものなんや。だから、「緑の革命」が東南アジアでは、農民の貧富の差を拡大したんやで、１年生のときの復習が必要やね … 倉橋）

６組　Ｔ．Ｔ　　江戸時代の農民は、五公五民などで米を半分もとられた。でも、それだけではなく、御口米や夫米、御蔵前入用をとられたうえに、種籾の分を残さなければならなかった。だから、農民は１人あたり１日に一合ほどしかなかった。農業生産の増加などで何とか生きていた。主食はぞうすいだった。

江戸幕府の政治の中心である幕藩体制は農民の年貢により成り立っている。五人組や朱子学の教えなどで確実に農民から年貢をとっている。農民は肥料に自分の「うんこ」を使った。でも、栄養がたらないので、大名などの「うんこ」をかいにいっていたのである。「うんこ」に等級があるなんて信じられなかった。しかも、口でなめて　たしかめるなんて　もってのほかだと思った。ぼくにはできない。たぶん他の人もできないだろう。こんなことまでして、江戸時代の農民は生活をしていた。とてもたくましいと思う。

（江戸時代の農民の「たくましさ」をテーマに書いた作文。歴史を学ぶことは、命や生き方のたくましさを学ぶことなんや。それに、「種籾」を忘れなかった君はえらい … 倉橋）

６組　Ｋ．Ｙ　　ぼくは、農民はたいしたものだと思います。武士たちに米をほとんどもっていかれて、武士たちのために米を作っているようなものなのに農具をあたらしく作ったり、肥料を作ったりいろいろなことをして少しでも多くの米や商品作物を作れるように　いろいろなことを、へこたれずにして、ぼくはすごいことだと思う。ほかにも、いい肥料を手に入れるためにうんこをなめたりとかをして、すこしでも豊かになろうとしてきたむかしの農民のへこたれない、こんじょうは、ぼくもみならっていかないといけないなと思いました。

（農民のたくましさを強調した作文。そうや、昔の人の根性を学ぼう … 倉橋）

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

No.49－9／10

６組　Ｍ．Ｍ　　江戸時代の農民のくらしは今にくらべてとてもきびしかったと思います。まず年貢の取りかたがすごい取りようだなと思いました。ゆう福な農民は税でとれた年貢の半分を取られても大丈夫だけれど貧農は半分もとられたら大変だと思います。それからぼくが　びっくりしたことは江戸時代の農民のフンはウサギみたいなフンときいて　とてもびっくりしました。しかも大名などのウンコを買うための争いがあるなんて今の時代では考えられません。そこまでして生きていくなんて　とてもりっぱだなと思います。慶安御触書にはとてもきびしくて、よくこんな中生きてこれたなと思います。今まで　ぼくは　なんとなしに米などをたくさん食べていましたが、江戸時代の農民は　そんなことはめったになかったです。しかも慶安御触書では、「酒や茶を買ったり飲んだりしてはいけない」と書いてありぼくは思いました。農民たちはほとんどおさ湯など水を飲んでいるのかなと思いました。それから幕府はすごいひどいことをするなと思いました。農民のうらみを武士などの上の位につけず下の位の、えたやひにんなどにつけるとはすごく下の位の人は　きびしく逆にこのひにんやえたが将軍をうらんでいたとぼくは思いました。

（農民のたくましさだけではなく、年貢の負担が貧農を苦しめたことを説明している点は、かなり説得力があるよ。「えたやひにん」へのうらみに転嫁させた幕府の政策と、農民がひどく差別したことに展開があれば、もっとよかったのになぁー。ざんねん。でも、これ以上書くスペースも時間もないよね … 倉橋）

６組　Ｍ．Ｉ　　江戸時代の農民は、年貢をたくさん取られていて食べ物も米の入っていない、葉っぱしか入っていないおかゆとお茶でおなかをふくらませていたから　ヒョロヒョロやったと思う。みんなーっしょの量の年貢を取られるから、あんまりお米ができなかった人がよけいにがんばらないけなかった＜いっぱいお米を作って自分が食べれる量を増やす …＞から、またまた、その人はしんどかったと思う。そして、もっとたくさんお米を作るため、肥料として「ウンコ」をくさらせてつかっていたらしい。「ウンコ」が肥料になるとはしらなかった … ちょっとビックリした。そして、もっとビックリした事が　肥料の「ウンコ」を取り合いして殺し合いをした。と聞いてこれまたビックリした。私達は毎日トイレにいって流しているものを、殺し合いまでするほど、農民達にとって米を育てるのに「重要」なものとは、すごいかん心した。

（「みんなーっしょの量の年貢を取られる」ではなく、「みんなーっしょの割合で年貢を取られるから」と説明した方が正確だよ。でも、貧農ほど年貢に苦しめられたことを、しっかり説明できている点はいいよ … 倉橋）

６組　Ｎ．Ｏ　　江戸時代の農民の人々は、きびしい年貢のせいで、自分たちが食べられる米が少ししか残らなかった。だけど、そのお米も、次の稲作の時に使う種としておいておかなければならなかった。だから、自分たちのもとにのこった米なんてほとんどなかった。それもこれも、五公五民とか言っときながら、実際にはもっと　いろいろな理由で米をとっていったきびしい年貢のせいである。

だけど、江戸時代の人々は、そんなきびしい条件の中を生きぬいてきた。米のかわりに大麦などを食べていた。授業中（放課後）、先生が私たちに、大麦と白菜とあわのみそ汁らしきものを　ごちそうしてくれたが、はっきりいって、味もしゃしゃりもなかった。

でも、あれは私たちが食べやすいようにと先生が味つけしてくれたらしい。あの体験で、昔の人がどんなものを食べていたか、ちょっとわかったと思う。だけど江戸時代の農民は、あのみそ汁らしきものも　おなかいっぱいに食べられず、茶でおなかをふくらませた。それで、朝から晩まで働くのだから、そりゃ早死にもするわ　と思った。

江戸時代の農民の人たちは、他にもいっぱい　いろんなことをやってきた。（うんこをなめたりとか。）だけど、それは、自分たちが生きぬいていくためにやったことなのだ。

人のうんこを買い取ったり、なめたりしなければ生きていけないなんて、江戸時代の農民の人々の生活は、本当に、口では言いあらわせないほど　大変だったろうなと思った。

（そうやね。今日からでは想像を絶する、日々の暮らしだったんだろうね。万年の栄養不良に、重労働。さらに、医学や薬学も未発達。害虫は多いし、電気もなければ、石油や石炭もない。そんな中での、厳しい年貢だったんだよなー … 倉橋）

1998.1.12

尼崎市立小園中学校　第3学年　社会科通信
なんでやねん
発行責任者　倉橋　忠
№49－10／10

６組　Ｒ．Ｓ　　この時代、農民は幕府から米をうばいとられた。正月でも米を食べることはなかった。草木のまざったかゆとお茶をのんで腹をふくらませていた。

農作物の肥料としてウンチを使った。その時できるだけいいウンチをと自分の舌で味見までし殺し合いまであった。（自分達のウンチは食べものの せいでいいウンチじゃなく使えなかった。）

私たちは今　毎日　米をたべれる。農作物だってスーパーなどでお金を払えばすぐに手に入る。

ウンチを味見するなんてとんでもないことだ。でも、昔のこんな生活があったからこそ　今の生活があるんだと思います。

（江戸時代の武士や町人も、米屋や八百屋の世話になっていたんだ。彼らは、今日のわれわれの生活によく似ているよ。違うのは、武士は生産的な仕事をしていなかったという点だ。もう少し、江戸時代の農民が、なぜ、米を作っていたのに食べることができなかったのかを説明するべきだね … 倉橋）

６組　Ｋ．Ｓ　　江戸幕府は、年貢で支えられている経済なので、少しでも多くの年貢をとろうとした。だから、農民は、正月さえも米のめしを食べれないきびしい生活をしていたのがわかった。農民は、生活を向上させようと、新田開発、農具の改良等努力を重ね、生産が高まったため、商品作物を作れるようになった。

今、私が米を食べれるのも、昔の農が種を残してくれたから。

（「昔の農が種を残してくれたから」は、「昔の農民」の誤りでしょう。このような脱字は気がつきにくいもの。注意しようね。他の人の作文でもコメントしたけど、新田開発をするために農民は働かされたけど、主体は幕府・大名や大商人だったんだよ … 倉橋）

６組　Ｙ．Ｔ　　農民の食生活は、正月でも米を食べれない程大変だった。ふだんも、こく物の色などが全然みえなくなるまで草木の葉を入れたものを食べたり、湯をのんで腹をふくらませたりした。他、農業で必要な肥料にふん尿が良いと聞き、いい物を食べている人が住んでいる所まで買いに行った。自分たちのは、食物せんいのような物ばかりでコロコロ固く使えなかったからである。そして、このいい物を食べる人達のふん尿のとり合いで殺し合いまでおきたりした。その上、幕府は年貢のとりしまりがきびしく、自分達の手元には米はほとんど残らなかった。刀狩などもされ一揆も出来なくなった。その上、幕府は士農工商などを言い、農民を２番目の位におき、安心させたりもした。

（この作文のおしい点は、農民の貧しさの原因は、厳しい年貢の取り立てだったことを忘れていることである。かなり具体的に書けているだけに、残念 … 倉橋）

神戸新聞・夕刊　[平成11年1月18日(土曜日)]
畳ふすまで「仮設住宅」を作る江戸時代の庶民ら